

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	横浜ファッションデザイン専門学校
設置者名	学校法人桜井学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
服飾・家政専門課程	ファッションクリエイティブ科	夜・通信	56単位	7単位	
	ファッションクリエイティブ科	夜・通信	40単位	4単位	
服飾・家政専門課程	ファッションビジネス科	夜・通信	54単位	7単位	
	ファッションビジネス科	夜・通信	32単位	4単位	
服飾・家政専攻科	ファッションデザイン科	夜・通信	—	—	
	ファッションデザイン科	夜・通信	—	—	
服飾・家政進学課程	ファッションデザイン科	夜・通信	860時間	80時間	
服飾・家政進学課程	グローバルビジネス科	夜・通信	—	4単位	※
	グローバルビジネス科	夜・通信	—	4単位	※
(備考) ファッションデザイン科(夜間部) 10月生が在籍しているため、時間制で記載している。グローバルビジネス科は現在学生の在籍がなく、教員を配置していないため。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

事務所にて閲覧可能

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名 グローバルビジネス科の昼間部・夜間部
(困難である理由) 学生の在籍がなく、授業を実施しないため

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	横浜ファッションデザイン専門学校
設置者名	学校法人桜井学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
*毎週末、専任教員が各教科の進捗状況を把握し、作成したシラバスに準拠して授業展開を行っているかを確認している。 *年度後半からは、当該年度のシラバスに基づき、授業法、目標達成度等を専任教員が確認しながら、授業内容の精選及び、次年度のシラバス作成の準備を開始し、専任教員だけではなく、非常勤講師の意見の聞き取りなどを通じて、学生の実態把握、使用中のシラバスの問題点、改善点等の、話し合いを重ねながら、次年度シラバス等の作成を開始している。 *新年度開始の3ヶ月前までには、次年度のシラバス原案を完成し、専任教員の話し合いを重ねながら修正していき、また非常勤講師との会合等での意見聴取も同時に行っている。 *年度末には次年度シラバスを非常勤講師と会合等で示し、周知徹底をはかっている。 *学生へのシラバス提示は、年度初めのオリエンテーションで行い、さらに各教科の授業開始の際、当該教科の担当者から、シラバスに基づき教科内容、評価の基準等の説明を行っている。	
授業計画書の公表方法	事務所にて閲覧可能

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) *年間を、前期、後期の二期制とし、前期評価に関しては、前期末テストの成績、テストを実施しない教科においては課題提出状況の評価基準のもととし、出席状況、授業へ取り組み状況、学修意欲の度合いなどを勘案した総合評価としている。また、前期末の職員会議において、個々の学生の評価及び学修実態を全職員共有し、討議の上個々の評価を決定している。また、後期に向けた個々の指導方針・指導方法を確認している。また、評価決定後、個々の学生と面談し、指導を行っている。 *後期評価は、前期と同様の評価基準とする。 *後期末（学年末）は、あわせて当該学年の学年評価として、通年の出席状況、授業へ取り組み状況等を勘案し、学年評価を決定する。学年評価は、職員会議において個々の学生の評価の妥当性等を論議し、職員会議において認定している。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) *年度初め、学生にシラバスを提示し授業内容の説明と評価基準等を確実に伝達し、周知させる。 *週ごと、月ごとの学生個々の出席状況や学習への取り組み状況、授業に関する興味関心等を把握し、教員、講師と情報を共有しながら、個別面談等を活用し、継続して指導を行っている。 *前期末、後期末（学年末）には、個々の学生の出席状況（2/3以上）、授業に対する取り組み、評価テスト（60点以上合格、60点未満は追試有）、課題提出状況（課題はすべて提出されているか、提出期限は守られているか）等を精査し、全教員で総合的に評価している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	事務所にて閲覧可能
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) *社会人として、職業人として、特にファッションに関わる科目他、設定科目全てを履修、習得することが卒業認定の方針である。また、卒業までに専門知識を深く学んでいくこと、社会人としての常識等を学修していくこと等を、機会を捉え周知させながら、社会人、ファッション関係の職業に従事するために必要とする教科履修時数と評価を習得した者に、卒業認定と専門士の称号を付与する。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	事務所にて閲覧可能

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	横浜ファッションデザイン専門学校
設置者名	学校法人桜井学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	事務所にて閲覧可能
収支計算書又は損益計算書	事務所にて閲覧可能
財産目録	事務所にて閲覧可能
事業報告書	事務所にて閲覧可能
監事による監査報告（書）	事務所にて閲覧可能

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政 専門課程	ファッション クリエイティブ科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	6 2 単位	5 単位	4 2 単位	1 0 単位	0 単位	5 単位
			6 2 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
8 0 人		5 6 人	2 人	3 人	1 0 人	1 3 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ＊毎週末、専任教員が各教科の進捗状況を把握し、シラバスに準拠して授業展開を行っているかを確認している。 ＊年度後半には専任教員が当該年度のシラバスにより、授業法や目標達成度等を確認し、授業内容の精査及び次年度のシラバス作成準備を開始する。専任教員は、非常勤講師の意見の聞き取りなどを通じて、学生の実態把握、使用中のシラバスの問題点、改善点等話し合いを重ねながら、次年度のシラバス等の作成を開始する。 ＊新年度開始の3ヶ月前までに次年度のシラバス原案を完成させ、専任教員と非常勤講師との意見交換により次年度シラバスを完成させる。 ＊年度末開催の講師会において次年度シラバスの周知徹底をはかっている。 ＊学生への周知は「学生管理システム」により、学則・授業カリキュラム・履修便覧の他、シラバスなども閲覧が可能となっている。 また、年度初めのオリエンテーションや各教科の授業開始の際、当該教科の担当者から、シラバスに基づいた教科内容や成績評価の基準等について説明も行っている。

成績評価の基準・方法
(概要) ＊年間を前後期の二期制とし、前後期評価に関しては、学期末テストの成績の他、シラバスにおける成績評価の方法に明記された評価基準により総合的に判定する。テストを実施していない教科の成績評価については、課題、出席状況、授業への取り組み状況、学修意欲の度合いなどを勘案した評価基準により総合的に判定し単位を認定する。 なお、通年評価科目についても同様の評価基準により総合的に判定する。 また、前後期末の職員会議において学生の評価や履修状況を教員が共有し、個別指導に活用している。職員会議において進級及び卒業に向けた個々の指導方針や指導方法を確認し面談等の指導を徹底している。
卒業・進級の認定基準
(概要) ＊年度初め、学生にシラバスを提示し授業内容の説明と評価基準等を確実に告知し、周知させる。 ＊週ごと、月ごとの学生個々の出席状況や学習への取り組み状況、授業に関する興味や関心等を把握し、専任教員が非常勤講師と情報を共有しながら、個別面談等を活用し、連動した指導を継続して行っている。 ＊学期末には、個々の学生の出席状況や授業への取り組み、評価テスト、課題提出状況等を精査し、専任教員と非常勤講師の全教員が総合的に評価している。 ＊本学においては社会人として、職業人として、特にファッション関連科目に関わる科目や設定科目の全てを履修し単位を修得することで卒業が認定されるものとする。 ＊卒業までに専門知識や人としての常識等を深く学んでいくことにより、社会で必要とされる人材の育成を試み、学修の機会を捉えさせる。 ＊社会人、ファッション関係の職業に従事するために必要とされる教科を履修し単位を取得した者に、「卒業認定」と「専門士」の称号を付与する。
学修支援等
(概要) ＊授業時間ごとに全学生の進捗を把握し、著しく遅れている場合は放課後の補講や長期休暇（夏休み等）に補講を行っている。 ＊資格取得にむけ、検定試験前には放課後の補習を行っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
17人 (100%)	5人 (29.4%)	9人 (52.9%)	3人 (17.6%)
(主な就職、業界等) ファッション業界、アパレル業界			
(就職指導内容) 適性検査、学校内企業説明会、求人票の掲示、エントリー指導、 エントリーシート作成指導、面接指導、個別相談、内定後のフォロー			

(主な学修成果（資格・検定等）） パターンメイキング技術検定、洋裁技術検定、色彩検定、 ファッションビジネス能力検定等
(備考)（任意記載事項） 令和8年4月1日より、学校教育法の改正に伴う特定専門課程認定の単位制へ移行した。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
50人	11人	22.0%
(中途退学の主な理由) 一身上の理由による。退学者のうち1名が留年後退学なる。		
中退防止・中退者支援のための取組 ＊日常的に学生の変化に注意をし、本人や保護者と連絡を取り、問題が大きくなる前に対応できるように取り組んでいる。 ＊経済的理由の場合は、授業料減免や夜間部への転科等の提案も行い、解決策がないか相談に応じている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政 専門課程	ファッション クリエイティブ科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
	2 年		夜	3 4 単位	4 単位	3 1 単位	3 単位
			4 0 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
4 0 人		2 3 人	0 人	2 人	9 人	1 1 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） ＊毎週末、専任教員が各教科の進捗状況を把握し、シラバスに準拠して授業展開を行っているかを確認している。 ＊年度後半には専任教員が当該年度のシラバスにより、授業法や目標達成度等を確認し、授業内容の精査及び次年度のシラバス作成準備を開始する。専任教員は、非常勤講師の意見の聞き取りなどを通じて、学生の実態把握、使用中のシラバスの問題点、改善点等話し合いを重ねながら、次年度のシラバス等の作成を開始する。 ＊新年度開始の3ヶ月前までに次年度のシラバス原案を完成させ、専任教員と非常勤講師との意見交換により次年度シラバスを完成させる。 ＊年度末開催の講師会において次年度シラバスの周知徹底をはかっている。 ＊学生への周知は「学生管理システム」により、学則・授業カリキュラム・履修便覧の他、シラバスなども閲覧が可能となっている。 また、年度初めのオリエンテーションや各教科の授業開始の際、当該教科の担当者から、シラバスに基づいた教科内容や成績評価の基準等について説明も行っている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） ＊年間を前後期の二期制とし、前後期評価に関しては、学期末テストの成績の他、シラバスにおける成績評価の方法に明記された評価基準により総合的に判定する。テストを実施していない教科の成績評価については、課題、出席状況、授業への取り組み状況、学修意欲の度合いなどを勘案した評価基準により総合的に判定し単位を認定する。 なお、通年評価科目についても同様の評価基準により総合的に判定する。 また、前後期末の職員会議において学生の評価や履修状況を教員が共有し、個別指導に活用している。職員会議において進級及び卒業に向けた個々の指導方針や指導方法を確認し面談等の指導を徹底している。	
卒業・進級の認定基準	
概要） ＊年度初め、学生にシラバスを提示し授業内容の説明と評価基準等を確実に告知し、周知させる。 ＊週ごと、月ごとの学生個々の出席状況や学習への取り組み状況、授業に関する興味	

や関心等を把握し、専任教員が非常勤講師と情報を共有しながら、個別面談等を活用し、連動した指導を継続して行っている。 ＊学期末には、個々の学生の出席状況や授業への取り組み、評価テスト、課題提出状況等を精査し、専任教員と非常勤講師の全教員が総合的に評価している。 ＊本学においては社会人として、職業人として、特にファッション関連科目に関わる科目や設定科目の全てを履修し単位を修得することで卒業が認定されるものとする。 ＊卒業までに専門知識や人としての常識等を深く学んでいくことにより、社会で必要とされる人材の育成を試み、学修の機会を捉えさせる。 ＊社会人、ファッション関係の職業に従事するために必要とされる教科を履修し単位を取得した者に、「卒業認定」と「専門士」の称号を付与する。
学修支援等
(概要) ＊授業時間ごとに全学生の進捗を把握し、著しく遅れている場合は放課後の補講や長期休暇（夏休み等）に補講を行っている。 ＊資格取得にむけ、検定試験前には放課後の補習を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7 人 (100%)	1 人 (14.3%)	4 人 (57.1%)	2 人 (28.6%)
(主な就職、業界等) ファッション業界、アパレル業界			
(就職指導内容) 適性検査、学校内企業説明会、求人票の掲示、エントリー指導、エントリーシート作成指導、面接指導、個別相談、内定後のフォロー			
(主な学修成果（資格・検定等）) パターンメイキング技術検定、洋裁技術検定、色彩検定、ファッションビジネス能力検定等			
(備考)（任意記載事項） 令和8年4月1日より、学校教育法の改正に伴う特定専門課程認定の単位制へ移行した。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22 人	1 人	4.5 %
(中途退学の主な理由) 一身上の理由による。退学者のうち1名が留年後、転科、退学となる。		
中退防止・中退者支援のための取組) ＊日常的に学生の変化に注意をし、本人や保護者と連絡を取り、問題が大きくなる前に対応できるように取り組んでいる。 ＊経済的理由の場合は、授業料減免や他部への転科等の提案も行い、解決策がないか相談に応じている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政 専門課程	ファッション ビジネス科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	6 2 単位	1 8 単位	4 2 単位	0 単位	0 単位	2 単位
			6 2 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
1 0 0 人		4 0 人	0 人	3 人	1 4 人	1 7 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） ＊毎週末、専任教員が各教科の進捗状況を把握し、シラバスに準拠して授業展開を行っているかを確認している。 ＊年度後半には専任教員が当該年度のシラバスにより、授業法や目標達成度等を確認し、授業内容の精査及び次年度のシラバス作成準備を開始する。専任教員は、非常勤講師の意見の聞き取りなどを通じて、学生の実態把握、使用中のシラバスの問題点、改善点等話し合いを重ねながら、次年度のシラバス等の作成を開始する。 ＊新年度開始の３ヶ月前までに次年度のシラバス原案を完成させ、専任教員と非常勤講師との意見交換により次年度シラバスを完成させる。 ＊年度末開催の講師会において次年度シラバスの周知徹底をはかっている。 ＊学生への周知は「学生管理システム」により、学則・授業カリキュラム・履修便覧の他、シラバスなども閲覧が可能となっている。 また、年度初めのオリエンテーションや各教科の授業開始の際、当該教科の担当者から、シラバスに基づいた教科内容や成績評価の基準等について説明も行っている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） ＊年間を前後期の二期制とし、前後期評価に関しては、学期末テストの成績の他、シラバスにおける成績評価の方法に明記された評価基準により総合的に判定する。 テストを実施していない教科の成績評価については、課題、出席状況、授業への取り組み状況、学修意欲の度合いなどを勘案した評価基準により総合的に判定し単位を認定する。 なお、通年評価科目についても同様の評価基準により総合的に判定する。 また、前後期末の職員会議において学生の評価や履修状況を教員が共有し、個別指導に活用している。職員会議において進級及び卒業に向けた個々の指導方針や指導方法を確認し面談等の指導を徹底している。	
卒業・進級の認定基準	
概要） ＊年度初め、学生にシラバスを提示し授業内容の説明と評価基準等を確実に告知し、周知させる。 ＊週ごと、月ごとの学生個々の出席状況や学習への取り組み状況、授業に関する興味や関心等を把握し、専任教員が非常勤講師と情報を共有しながら、個別面談等を活	

用し、連動した指導を継続して行っている。 ＊学期末には、個々の学生の出席状況や授業への取り組み、評価テスト、課題提出状況等を精査し、専任教員と非常勤講師の全教員が総合的に評価している。 ＊本学においては社会人として、職業人として、特にファッション関連科目に関わる科目や設定科目の全てを履修し単位を修得することで卒業が認定されるものとする。 ＊卒業までに専門知識や人としての常識等を深く学んでいくことにより、社会で必要とされる人材の育成を試み、学修の機会を捉えさせる。 ＊社会人、ファッション関係の職業に従事するために必要とされる教科を履修し単位を取得した者に、「卒業認定」と「専門士」の称号を付与する。
学修支援等
(概要) ＊授業時間ごとに全学生の進捗を把握し、著しく遅れている場合は放課後の補講や長期休暇（夏休み等）に補講を行っている。 ＊資格取得にむけ、検定試験前には放課後の補習を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
20人 (100%)	0人 (0%)	19人 (95%)	1人 (5%)
(主な就職、業界等) ファッション業界、アパレル業界			
(就職指導内容) 適性検査、学校内企業説明会、求人票の掲示、エントリー指導、 エントリーシート作成指導、面接指導、個別相談、内定後のフォロー			
(主な学修成果（資格・検定等）) ファッション販売能力検定、ファッションビジネス能力検定、色彩検定、 リテールマーケティング（販売士）検定、商品装飾展示技能士等			
(備考)（任意記載事項） 令和8年4月1日より、学校教育法の改正に伴う特定専門課程認定の単位制へ移行した。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
51人	6人	11.8%
(中途退学の主な理由) 一身上の理由による。退学者のうち1名が休学後退学となる。		
中退防止・中退者支援のための取組) ＊日常的に学生の変化に注意をし、本人や保護者と連絡を取り、問題が大きくなる前に対応できるように取り組んでいる。 ＊経済的理由の場合は、授業料減免や夜間部への転科等の提案も行い、解決策がないか相談に応じている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政 専門課程	ファッション ビジネス科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	夜	3 4 単位	2 0 単位	2 0 単位	0 単位	0 単位	0 単位
			4 0 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
2 0 人		1 人	0 人	2 人	3 人	5 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） ＊毎週末、専任教員が各教科の進捗状況を把握し、シラバスに準拠して授業展開を行っているかを確認している。 ＊年度後半には専任教員が当該年度のシラバスにより、授業法や目標達成度等を確認し、授業内容の精査及び次年度のシラバス作成準備を開始する。専任教員は、非常勤講師の意見の聞き取りなどを通じて、学生の実態把握、使用中のシラバスの問題点、改善点等話し合いを重ねながら、次年度のシラバス等の作成を開始する。 ＊新年度開始の3ヶ月前までに次年度のシラバス原案を完成させ、専任教員と非常勤講師との意見交換により次年度シラバスを完成させる。 ＊年度末開催の講師会において次年度シラバスの周知徹底をはかっている。 ＊学生への周知は「学生管理システム」により、学則・授業カリキュラム・履修便覧の他、シラバスなども閲覧が可能となっている。 また、年度初めのオリエンテーションや各教科の授業開始の際、当該教科の担当者から、シラバスに基づいた教科内容や成績評価の基準等について説明も行っている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） ＊年間を前後期の二期制とし、前後期評価に関しては、学期末テストの成績の他、シラバスにおける成績評価の方法に明記された評価基準により総合的に判定する。 テストを実施していない教科の成績評価については、課題、出席状況、授業への取り組み状況、学修意欲の度合いなどを勘案した評価基準により総合的に判定し単位を認定する。 なお、通年評価科目についても同様の評価基準により総合的に判定する。 また、前後期末の職員会議において学生の評価や履修状況を教員が共有し、個別指導に活用している。職員会議において進級及び卒業に向けた個々の指導方針や指導方法を確認し面談等の指導を徹底している。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ＊年度初め、学生にシラバスを提示し授業内容の説明と評価基準等を確実に告知し、周知させる。 ＊週ごと、月ごとの学生個々の出席状況や学習への取り組み状況、授業に関する興味	

や関心等を把握し、専任教員が非常勤講師と情報を共有しながら、個別面談等を活用し、連動した指導を継続して行っている。 ＊学期末には、個々の学生の出席状況や授業への取り組み、評価テスト、課題提出状況等を精査し、専任教員と非常勤講師の全教員が総合的に評価している。 ＊本学においては社会人として、職業人として、特にファッション関連科目に関わる科目や設定科目の全てを履修し単位を修得することで卒業が認定されるものとする。 ＊卒業までに専門知識や人としての常識等を深く学んでいくことにより、社会で必要とされる人材の育成を試み、学修の機会を捉えさせる。 ＊社会人、ファッション関係の職業に従事するために必要とされる教科を履修し単位を取得した者に、「卒業認定」と「専門士」の称号を付与する。
学修支援等
(概要) ＊授業時間ごとに全学生の進捗を把握し、著しく遅れている場合は放課後の補講や長期休暇（夏休み等）に補講を行っている。 ＊資格取得にむけ、検定試験前には放課後の補習を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
2人 (100%)	0人 (0%)	1人 (50%)	1人 (50%)
(主な就職、業界等) 一般業界			
(就職指導内容) 適性検査、学校内企業説明会、求人票の掲示、エントリー指導、 エントリーシート作成指導、面接指導、個別相談、内定後のフォロー			
(主な学修成果（資格・検定等）) ファッション販売能力検定、ファッションビジネス能力検定、色彩検定、 リテールマーケティング（販売士）検定、商品装飾展示技能士等			
(備考)（任意記載事項） 令和8年4月1日より、学校教育法の改正に伴う特定専門課程認定の単位制へ移行した。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4人	1人	25%
(中途退学の主な理由) 一身上の理由による。		
中退防止・中退者支援のための取組) ＊日常的に学生の変化に注意をし、本人や保護者と連絡を取り、問題が大きくなる前に対応できるように取り組んでいる。 ＊経済的理由の場合は、授業料減免や夜間部への転科等の提案も行い、解決策がないか相談に応じている。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
服飾・家政		服飾・家政 専門課程	ファッション デザイン科(時間制)					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
1 年	夜	8 6 0／8 0 単位時間／単位	160 単位時間 /単位	520 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	180 単位時間 /単位	
			8 6 0 単位時間／単位					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
5 人		1 人	0 人	1 人	3 人	4 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） ＊毎週末、専任教員が各教科の進捗状況を把握し、シラバスに準拠して授業展開を行っているかを確認している。 ＊年度後半には専任教員が当該年度のシラバスにより、授業法や目標達成度等を確認し、授業内容の精査及び次年度のシラバス作成準備を開始する。専任教員は、非常勤講師の意見の聞き取りなどを通じて、学生の実態把握、使用中のシラバスの問題点、改善点等話し合いを重ねながら、次年度のシラバス等の作成を開始する。 ＊新年度開始の３ヶ月前までに次年度のシラバス原案を完成させ、専任教員と非常勤講師との意見交換により次年度シラバスを完成させる。 ＊年度末開催の講師会において次年度シラバスの周知徹底をはかっている。 ＊学生への周知は「学生管理システム」により、学則・授業カリキュラム・履修便覧の他、シラバスなども閲覧が可能となっている。 また、年度初めのオリエンテーションや各教科の授業開始の際、当該教科の担当者から、シラバスに基づいた教科内容や成績評価の基準等について説明も行っている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） ＊年間を前後期の二期制とし、前後期評価に関しては、学期末テストの成績の他、シラバスにおける成績評価の方法に明記された評価基準により総合的に判定する。 テストを実施していない教科の成績評価については、課題、出席状況、授業への取り組み状況、学修意欲の度合いなどを勘案した評価基準により総合的に判定し単位を認定する。 なお、通年評価科目についても同様の評価基準により総合的に判定する。 また、前後期末の職員会議において学生の評価や履修状況を教員が共有し、個別指導に活用している。職員会議において進級及び卒業に向けた個々の指導方針や指導方法を確認し面談等の指導を徹底している。	
卒業・進級の認定基準	
概要） ＊年度初め、学生にシラバスを提示し授業内容の説明と評価基準等を確実に告知し、周知させる。 ＊週ごと、月ごとの学生個々の出席状況や学習への取り組み状況、授業に関する興味や関心等を把握し、専任教員が非常勤講師と情報を共有しながら、個別面談等を活	

用し、連動した指導を継続して行っている。 ＊学期末には、個々の学生の出席状況や授業への取り組み、評価テスト、課題提出状況等を精査し、専任教員と非常勤講師の全教員が総合的に評価している。 ＊本学においては社会人として、職業人として、特にファッション関連科目に関わる科目や設定科目の全てを履修し単位を修得することで卒業が認定されるものとする。 ＊卒業までに専門知識や人としての常識等を深く学んでいくことにより、社会で必要とされる人材の育成を試み、学修の機会を捉えさせる。 ＊社会人、ファッション関係の職業に従事するために必要とされる教科を履修し単位を取得した者に、「卒業認定」の称号を付与する。
学修支援等
(概要) ＊授業時間ごとに全学生の進捗を把握し、著しく遅れている場合は放課後の補講や長期休暇（夏休み等）に補講を行っている。 ＊資格取得にむけ、検定試験前には放課後の補習を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
1 人 (100%)	0 人 (0%)	1 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) パタンナー			
(就職指導内容) 適性検査、学校内企業説明会、求人票の掲示、エントリー指導、 エントリーシート作成指導、面接指導、個別相談、内定後のフォロー			
(主な学修成果（資格・検定等）) ファッション販売能力検定、ファッションビジネス能力検定、色彩検定、 リテールマーケティング（販売士）検定等			
(備考)（任意記載事項） 令和 8 年 4 月 1 日より、学校教育法の改正に伴う特定専門課程認定の単位制の 1 年専攻科に移行したので記載は不要であるが、夜間部 10 月生（時間制）の在籍者が存在するため記載している。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1 人	0 人	0 %
(中途退学の主な理由)		
中退防止・中退者支援のための取組) ＊日常的に学生の変化に注意をし、本人や保護者と連絡を取り、問題が大きくなる前に対応できるように取り組んでいる。 ＊経済的理由の場合は、授業料減免や夜間部への転科等の提案も行い、解決策がないか相談に応じている。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
服飾・家政		服飾・家政 専門課程	グローバル ビジネス科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
1 年	昼	3 1 単位	2 8 単位	3 単位	0 単位	0 単位	0 単位	
			3 1 単位					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
2 0 人		0 人	0 人	0 人	0 人		0 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） ＊毎週末、専任教員が各教科の進捗状況を把握し、シラバスに準拠して授業展開を行っているかを確認している。 ＊年度後半には専任教員が当該年度のシラバスにより、授業法や目標達成度等を確認し、授業内容の精査及び次年度のシラバス作成準備を開始する。専任教員は、非常勤講師の意見の聞き取りなどを通じて、学生の実態把握、使用中のシラバスの問題点、改善点等話し合いを重ねながら、次年度のシラバス等の作成を開始する。 ＊新年度開始の3ヶ月前までに次年度のシラバス原案を完成させ、専任教員と非常勤講師との意見交換により次年度シラバスを完成させる。 ＊年度末開催の講師会において次年度シラバスの周知徹底をはかっている。 ＊学生への周知は「学生管理システム」により、学則・授業カリキュラム・履修便覧の他、シラバスなども閲覧が可能となっている。 また、年度初めのオリエンテーションや各教科の授業開始の際、当該教科の担当者から、シラバスに基づいた教科内容や成績評価の基準等について説明も行っている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） ＊年間を前後期の二期制とし、前後期評価に関しては、学期末テストの成績の他、シラバスにおける成績評価の方法に明記された評価基準により総合的に判定する。 テストを実施していない教科の成績評価については、課題、出席状況、授業への取り組み状況、学修意欲の度合いなどを勘案した評価基準により総合的に判定し単位を認定する。 なお、通年評価科目についても同様の評価基準により総合的に判定する。 また、前後期末の職員会議において学生の評価や履修状況を教員が共有し、個別指導に活用している。職員会議において進級及び卒業に向けた個々の指導方針や指導方法を確認し面談等の指導を徹底している。	
卒業・進級の認定基準	
概要） ＊年度初め、学生にシラバスを提示し授業内容の説明と評価基準等を確実に告知し、周知させる。 ＊週ごと、月ごとの学生個々の出席状況や学習への取り組み状況、授業に関する興味や関心等を把握し、専任教員が非常勤講師と情報を共有しながら、個別面談等を活	

用し、連動した指導を継続して行っている。 ＊学期末には、個々の学生の出席状況や授業への取り組み、評価テスト、課題提出状況等を精査し、専任教員と非常勤講師の全教員が総合的に評価している。 ＊本学においては社会人として、職業人として、特にファッション関連科目に関わる科目や設定科目の全てを履修し単位を修得することで卒業が認定されるものとする。 ＊卒業までに専門知識や人としての常識等を深く学んでいくことにより、社会で必要とされる人材の育成を試み、学修の機会を捉えさせる。 ＊社会人、ファッション関係の職業に従事するために必要とされる教科を履修し単位を取得した者に、「卒業認定」の称号を付与する。
学修支援等
(概要) ＊授業時間ごとに全学生の進捗を把握し、著しく遅れている場合は放課後の補講や長期休暇（夏休み等）に補講を行っている。 ＊資格取得にむけ、検定試験前には放課後の補習を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 適性検査、学校内企業説明会、求人票の掲示、エントリー指導、エントリーシート作成指導、面接指導、個別相談、内定後のフォロー			
(主な学修成果（資格・検定等）) ファッション販売能力検定、ファッションビジネス能力検定、色彩検定、リテールマーケティング（販売士）検定等			
(備考)（任意記載事項） 令和8年4月1日より、学校教育法の改正に伴う特定専門課程認定の単位制へ移行したが、在籍者はいない。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
中退防止・中退者支援のための取組) ＊日常的に学生の変化に注意をし、本人や保護者と連絡を取り、問題が大きくなる前に対応できるように取り組んでいる。 ＊経済的理由の場合は、授業料減免や夜間部への転科等の提案も行い、解決策がないか相談に応じている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政 専門課程	グローバル ビジネス科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	夜	17 単位	18 単位	2 単位	0 単位	0 単位	0 単位
			20単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
5人		0人	0人	0人	0人	0人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） ＊毎週末、専任教員が各教科の進捗状況を把握し、シラバスに準拠して授業展開を行っているかを確認している。 ＊年度後半には専任教員が当該年度のシラバスにより、授業法や目標達成度等を確認し、授業内容の精査及び次年度のシラバス作成準備を開始する。専任教員は、非常勤講師の意見の聞き取りなどを通じて、学生の実態把握、使用中のシラバスの問題点、改善点等話し合いを重ねながら、次年度のシラバス等の作成を開始する。 ＊新年度開始の3ヶ月前までに次年度のシラバス原案を完成させ、専任教員と非常勤講師との意見交換により次年度シラバスを完成させる。 ＊年度末開催の講師会において次年度シラバスの周知徹底をはかっている。 ＊学生への周知は「学生管理システム」により、学則・授業カリキュラム・履修便覧の他、シラバスなども閲覧が可能となっている。 また、年度初めのオリエンテーションや各教科の授業開始の際、当該教科の担当者から、シラバスに基づいた教科内容や成績評価の基準等について説明も行っている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） ＊年間を前後期の二期制とし、前後期評価に関しては、学期末テストの成績の他、シラバスにおける成績評価の方法に明記された評価基準により総合的に判定する。テストを実施していない教科の成績評価については、課題、出席状況、授業への取り組み状況、学修意欲の度合いなどを勘案した評価基準により総合的に判定し単位を認定する。 なお、通年評価科目についても同様の評価基準により総合的に判定する。 また、前後期末の職員会議において学生の評価や履修状況を教員が共有し、個別指導に活用している。職員会議において進級及び卒業に向けた個々の指導方針や指導方法を確認し面談等の指導を徹底している。	
卒業・進級の認定基準	
概要） ＊年度初め、学生にシラバスを提示し授業内容の説明と評価基準等を確実に告知し、周知させる。 ＊週ごと、月ごとの学生個々の出席状況や学習への取り組み状況、授業に関する興味や関心等を把握し、専任教員が非常勤講師と情報を共有しながら、個別面談等を活	

用し、連動した指導を継続して行っている。 ＊学期末には、個々の学生の出席状況や授業への取り組み、評価テスト、課題提出状況等を精査し、専任教員と非常勤講師の全教員が総合的に評価している。 ＊本学においては社会人として、職業人として、特にファッション関連科目に関わる科目や設定科目の全てを履修し単位を修得することで卒業が認定されるものとする。 ＊卒業までに専門知識や人としての常識等を深く学んでいくことにより、社会で必要とされる人材の育成を試み、学修の機会を捉えさせる。 ＊社会人、ファッション関係の職業に従事するために必要とされる教科を履修し単位を取得した者に、「卒業認定」の称号を付与する。
学修支援等
(概要) ＊授業時間ごとに全学生の進捗を把握し、著しく遅れている場合は放課後の補講や長期休暇（夏休み等）に補講を行っている。 ＊資格取得にむけ、検定試験前には放課後の補習を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 適性検査、学校内企業説明会、求人票の掲示、エントリー指導、エントリーシート作成指導、面接指導、個別相談、内定後のフォロー			
(主な学修成果（資格・検定等）) ファッション販売能力検定、ファッションビジネス能力検定、色彩検定、リテールマーケティング（販売士）検定等			
(備考)（任意記載事項） 令和8年4月1日より、学校教育法の改正に伴う特定専門課程認定の単位制へ移行したが、在籍者はいない。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
中退防止・中退者支援のための取組) ＊日常的に学生の変化に注意をし、本人や保護者と連絡を取り、問題が大きくなる前に対応できるように取り組んでいる。 ＊経済的理由の場合は、授業料減免や夜間部への転科等の提案も行い、解決策がないか相談に応じている。		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備 考 (任意記載事項)
昼間部 ファッションクリエイティブ科	120,000 円	600,000 円	280,000 円	
昼間部 ファッションビジネス科	120,000 円	600,000 円	280,000 円	
昼間部 専攻科 ファッションデザイン科	90,000 円	600,000 円	280,000 円	内部進学者は 入学金免除
昼間部 国際アパレル科	120,000 円	380,000 円	260,000 円	
昼間部 グローバルビジネス科	90,000 円	600,000 円	280,000 円	内部進学者は 入学金免除
夜間部 ファッションクリエイティブ科	90,000 円	360,000 円	170,000 円	
夜間部 ファッションビジネス科	90,000 円	360,000 円	170,000 円	
夜間部 専攻科 ファッションデザイン科	60,000 円	360,000 円	170,000 円	内部進学者は 入学金免除
夜間部 グローバルビジネス科	60,000 円	360,000 円	170,000 円	〃
修学支援（任意記載事項）				
国際アパレル科は、修学支援対象外。ファッションデザイン科は専攻科のため、記載不要。ファッションデザイン科（進学課程）は 10 月生の在籍者がいるため記載。グローバルビジネス科は在籍者なし。				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 事務所にて閲覧可能
第三者評価の基本方針（実施方法・体制）
・主な評価項目：教育理念・目標、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集、財務、法令等の遵守 ・ファッション協会団体およびアパレル企業の役員の計 4 名で構成された学校関係者評価委員会を開催し、評価を行う。 ・学校関係者評価委員が学校評価を行い、その結果を広く公表し、透明性の高い評価にする。 ・学校関係者評価委員会の評価結果をもとに学校運営や教育活動に反映させる。

第三者評価の委員		
所 属	任 期	種 別
繊維協会 役員	2025. 4. 1～2027. 3. 31	業界団体等
アパレル企業 役員	2025. 4. 1～2027. 3. 31	企業等
アパレル企業 役員	2025. 4. 1～2027. 3. 31	企業等
アパレル企業 役員	2025. 4. 1～2027. 3. 31	企業等
第三者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 事務所にて閲覧可能		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		
第三者評価未実施のため、学校関係者評価について記載。		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://yfd-c.com/disclosure/
--